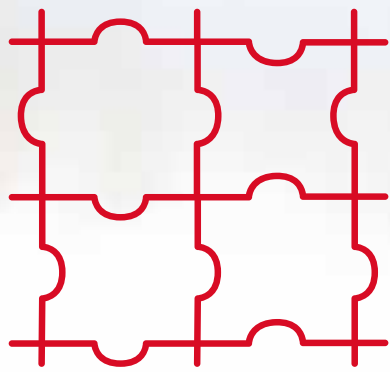




PIECES

Annual Report
2018-2019



認定NPO法人PIECES

子どもの描く 複雑で豊かな世界

Prologue
by Ibuki Ozawa

「子どもが子どもでいられる時間や空間を大切にしたい」

私達はそんなことを願いながらも、大人が生きる社会の物差しを意図せずして子どもにも差し出していることがあります。その物差しは時として、子どもの持つ豊かさを見えづらくしてしまうのではないでしょうか。

ある男の子が、久々に怒りを爆発させ、顔を真っ赤にして、あふれ出そうな何かをなんとかこらえなが

んな彩りでしょうか。子どもの感じる体験は、どんな物語として子どもの中に息づいているのでしょうか。子どもたちの隣で子どもから学ぶ日々。だけど、大人が思っている子どもの行動の背景と、子どもが何を願って、その行動をしたかは実は食い違っていることがあります。

表面に見えている言動や「困ること」はその子の全てではありません。

大人の思う目的に向かわせようとするあまり見逃してしまふことがあるけれど、子どもたちの内面にはいろいろな気持ちがあり、好奇心があり、願いがあり、大切にしていることがあります。

子どもたちは複雑で豊かだ。

子どもの豊かさを大切に
するシーズの「市民育成
プログラム」

意図せずして大人の社会の物差

ら物に当たっていました。彼と出会って一年、ものを壊したり、やり場のない感情を誰かに向けて爆発させることが減り、その前に気持ちを伝えることが増えていた時の出来事でした。

「だってさ、僕のこと嫌いでしょ。あの人たち」

日常で彼に関わっている大人のことに対してそう言う彼。そんなふうに思っただけでななんだろう。

「最近ちょっとイライラしやすくて、ウウウってなること多くて。」

そっかあ。ウウウってなるの自分で気づくようになったんだ。ウウウってどんな感覚なんだろう。どんな時にウウウってなるのかな。ウウウってなった時はどんなふうに過ごしてるのだろう。

「学校の先生が変わって、ちょっとずつルールが増えてってるんだよ。だから、ルールがすぐ変わるんだ。いつまでルールが増えるかわ

しを子どもに差し出している時。少しだけ立ち止まって、子どもが何を思い、どんな気持ちで、何を願っているかを知ろうとする余裕を社会に作りたい。だから、私たちPIECESは、子どものもつ豊かさが大切にされるように、子どもの周りに様々な関係や文化を通した「優しい間」を増やしています。

そしてそのプロセスで、「優しい間」をつくる市民の持つ豊かさも大切にされるプログラムを行っています。

「優しい間」は、自分のことも相手のことも大切にする意思決定が生まれる間のことです。私たちは、同じ人間でありながら、違う正義や価値観、感情、思考を持っています。どのように世界を捉えるかも違うのです。

プログラムを通して、その違いに好奇心を寄せ、市民自身が自分の大切にしていることを振り返り、

からなくてウウウってなる。」

「あとね、同じクラスになった子が、僕のことあだ名で呼ぶんだ。やだっていうとなんどもあだ名で呼んでイライラする」

しばらく彼と話しているうちに、彼は何かを思いついたらしく、そこにあったぬいぐるみで、自分が願う大人との関係の即興劇をしてくれました。

複雑で豊かな子どもの願い
に目を向ける

子どもたちの隣で、子どもたちから紡がれる風景と一緒に眺めていると、その内面にある多様性に、豊かさにハッとします。

表面に見える言動や、大人が困ったなあと思うような行動だけに目が向きやすいけれど、子どもたちは日々たくさん自分を自分なりに感じ、自分なりに意味付け、自分なりの物語をつくっています。

子どもの目から見える世界はど

子どもの大切になっている願いを想像し、お互いを尊重しあえる新たな世界を紡ぎ、広げていきます。

一つの目的に回収していく過程では見えづらい、子どもたちの持つ好奇心や願いは、子どもたちの世界を広げていく種でもあります。だから、そんな複雑な豊かさを大切にしたいなと思います。

そして、それを大切にできるためには、きっと私たち大人にも余裕が必要だし、私たち大人自身が、自分の気持ちや願いといった複雑な豊かさを大切にできる環境も必要なんだろうと思うのです。



ほっといてよ。大人なんて信用できない。
どうせ僕の存在なんて、誰も気にかけてないんだ。

僕なんて、いてもいなくても同じ。
いくら頑張ったって、結局意味がない。

本当は誰かに助けてほしいけど、
信頼して相談できる人は一人もない。

Issue

頼れる人がいない 頼むということがわからない 「子どもの孤立」

地域社会の課題として、子どもの虐待や貧困、不登校などの背景にある子どもや家族の「心の孤立」ということが取り上げられています。ここでのいう「心の孤立」とは、生きづらさや困難を抱えていても、大人や社会に助けを求めることができない、頼れないという心の状態のことです。

心の孤立の背景には、いわゆる支援機関や学校など、子どもをサポートする主な担い手の逼迫化や、専門機関と地域市民の分断などがあると考えています。その結果、精神面でのケアを十分に受けることができず、最初は小さかった心の傷口が徐々に広がっていき、他人や自分のことも信じられない心の孤立の状態になっていきます。

傷口が小さいうちに、そして助けを求められなくなる前に、子どもに関わる人が不在であるということが、大きな課題であると考えています。

育成プログラムの目標

01 基本的な価値観

- ・人を信じ続けること
- ・自分を尊い存在だと思えること
- ・自分の価値観を外しておく

02 子どもの潜在的な興味や心地よさを見いだせる

- ・子どもへの眼差し ・好奇心
- ・ストレングス視点 ・創造性を持って関わる

03 学び続け・問い直し続ける

- ・自分の関わりを問い直し続けること
- ・自分の持っている強みや武器や限界を理解する

市民/地域との関わり

余白・ストレングスに目を向ける。
その子どもに足りていない要素を
柔軟に埋めたり、つなげたりする。

専門家との関わり アセスメント 課題への支援

+



孤立した子どもへの教育や奨学金、医療の提供など直接的な支援もあるなかで、なぜ一見遠回りにも感じられる市民育成にとりくむのか。それは、子どもの育つ環境そのものを変えていくことこそが、持続的な社会変革に繋がると考えているからです。

私たちは医療や福祉の現場で、たくさん子どもたちに出会ってきました。専門家の方々や行政の方々が対応しているのも、子どもたちが多くの日常を過ごすのは、地域です。その地域が子どもたちにとって優しい「間」に溢れていれば、子どもたちは孤立していきません。そう考

え、地域の生活者である市民の行動変容を促していけるようなプログラム作りに取り組んでいます。子どもたちの育つ地域・社会が優しい間で溢れていくために、私たちが学習プログラムで大切にしていることは、「子どもにとっても市民自身にとっても優しい間」を生み出すということです。

まず、子どもへの潜在的な興味や心地よさを見出していくことを学んでいきます。目の前の子どもにも好奇心をもって関わること。子どもの困りごとだけに目を向けるのではなく、その子の好きなことやできること、大切にしている願いなど

PIECESが目指す「子どもと関わる市民」の専門性とは

その子を救う・子どもの状況を踏み込んで背負い込むことではなく

子どもにとっても市民自身にとっても優しい間を生み出すこと

に目を向けていくこと。そして、自分の価値観や考えを押し付けるのではなく、その子を信じ、一緒に時間を過ごし、いくこと。そうした時間の中で、優しい間は生まれていくと考えています。そして、子どもだけではなく、自分自身のことでも大切にしていくことを大切にすることが大切です。本人が楽しく健康に活動できることが何より大事です。それがひいては子どものためにもなっていくきます。それは、自分自身を大切にし、自分らしく生きている大人が増えることで、健康的で多様な人がいる地域になり、子どもの時間も豊かになっていくからです。そのため、自分のことを知っていく、自分なりの地域活動を模索していくことをプログラムでは行います。

最後に「学び続け・問い直し続けること」を探索します。子どもとの関わり方や、地域での活動に正解はありません。参加する子どもや状況によって常に変わっていくものです。だからこそ、優しい間が生まれ続けていくためには、学び続け、問い直し続けていく姿勢を保つことが大事になります。こうした「市民性」を半年間かけて、チーム全員で探索し、培っていくのが本プログラムです。

Project 01

良い関わりを育む コミュニティユースワーカーを 育成する Community Youth Worker 4th

子どもたちにとって「信頼できる他者」となるために。私たちは孤立した子どもたちの日常に寄り添い、自立までをサポートする市民「コミュニティユースワーカー」の育成を行いました。

4期生となる今回は約50名の中から選ばれた11名（大学生5名／社会人6名）全員がプログラムを修了し、それぞれのフィールドで活動をスタートしています。



育成プログラム

座学 知識の獲得

ゼミ 月2-3時間のワークを行う

実践 子どもたちと主に下記の場所で実際に関わる

- ・自身の活動のフィールド
- ・PIECESの居場所
- ・他団体の活動

	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5	Day 6
座学						
ゼミ	グループワーク チームビルディング	リフレクション 入門	グループワーク コミュニケーション 基礎	グループワーク 観察と考察について	リフレクション プロセスレコード	グループワーク 自己知覚 / コミュニケーションの技術
実践	月2~4回ほどの子どもたちとの関わり					

Project 02

育成プログラムを全国へ展開する

Citizenship for Children

これまで東京が主だった活動範囲を広げ、各地にいるかもしれない「孤立した子どもたち」と優しい関係性を紡げる大人を増やしたい。そんな想いから2019年7月より全国展開がスタート。

その第一弾として、茨城県水戸市で12人、約6ヶ月間に及ぶ育成プログラム(Citizenship for Children)が始まりました。



12月には合宿を行いました！



ABOUT セカンドリーグ茨城

子育て世代の応援と、暮らしや地域の課題解決をし、暮らしやすい茨城をめざすNPO法人。地域の課題解決や子ども・子育て支援を担う団体や個人を支援している。

私たちはこれまで東京都内を中心に活動をしてきましたが、これからは他の地域へ活動を広げ、「優しい間」を生む市民が増え続ける土壌を丁寧に作っていきます。そのためには私たちだけでなく各地のパートナーと連携することが必要だと考えています。

今回プログラムを協働することになったNPO法人セカンドリーグ茨城さんは、水戸の子ども・若者を取り巻く現状に関する理解の深さ、そして地域の中間支援組織として、多様な社会資源との広く深い繋がりを持つ心強いパートナー。この水戸での開催を皮切りに、今年度から育成プログラムの全国展開を、私たちはスタートしていきます。

ループリック評価で見る 育成プログラムの成果

		全メンバーの平均値	
全4段階評価(※)		7月当初	終了時
マインド セット	人を信じる	3.1	3.0
	価値観	2.7	3.5
	支援観	2.7	3.0
コミット	実践への関わり	3.0	3.0
	チームワーク	2.7	3.1
	自己管理	2.5	3.3
スキル	傾聴	2.6	2.9
	共感	3.0	3.4
	創造性	3.0	3.3
	強みと限界	2.3	2.9

価値観

“相手の特徴をポジティブな言葉で表現する”など従来の価値観にとらわれない変化が多くみられた。

実践への関わり

個人の特性に合う現場との出会い、また個人のミッション次第でも関わりの成長度は異なる。

共感

子どもへの興味・この活動への好奇心が共感スキルの伸ばすポイントと見える。

ループリック評価とは？

※4段階評価詳細の例【価値観】

- 1 自分の価値観と他者の価値観が違うことを普段あまり意識していない。意識しようとしているが忘れることが多い。
- 2 自分の価値観を客観的に捉えようと意識しているが、時々否定・拒否したり、感情的になったりすることがある。
- 3 自分の価値観をある程度理解し、自分と違う価値観の人を受け止めることができ、めったに否定、拒否、対立することがない。感情的になることも少ない。
- 4 自分の価値観を理解し、受け容れているため、自分の価値観をおいておいて、自分と違う価値観の人を受け止めることができ、対応できている。

市民育成プログラムではテスト形式で測定しやすい知識ではなく、マインドセットとそれに基づいた行動やコミュニケーションを学ぶことが目標になっています。

そういった行動・行為を測定するため、行為のレベルを表す尺度と、それぞれの点数を代表する行為の特徴を記述した文章で作成するのがループリックです。PIECESでは独自でこれを開発・改良し、効果測定を行なっています。

育成プログラム

参加者の声

参加した当初は、個人的な課題として、年齢の離れた子どもたちと親しい関係性を結ぶ難しさを感じていました。

また子どもとの関わりの中で、その子のために思っている行動を選択しているつもりでしたが、自分の願いや希望を知らず知らずのうちに優先していいか？という視点で、コミュニケーションや思考の癖を見直す良い機会となりました。

ゼミでは様々な分野の方のお話を聞くことができ、支援の在り方を多方面から考えるきっかけを毎回ただけて、とても有意義なプログラムだったと思います。

ユースワーカー同士のコミュニケーションの中で学ぶ点も多く、ファシリテーターの皆さんの適切なつっこみや場の空気の作り方によって、全員が積極的に意見を発信できました。

また現場などでは、先輩メンバーと情報交換しながら子どもとの関わりを持つことが出来たのも、とても良い経験でした。

PIECES Memaber
個人noteアカウントも！



Ibuki Ozawa
<https://note.com/ibukiozawa>



Sai
https://note.com/y_sai



青木 翔子 | Aoki Shoko
<https://note.com/shokosmo>

note

#PIECES_Magazine発信中

https://note.com/pieces_magazine



主にプロボノのメンバーで週2回更新中！

「#私の子ども時代」や「#PIECESの本棚」などをテーマに少しゆるい雰囲気の中でPIECESに色々な関わり方をしていくメンバーが文章を書いています。

PIECESのユーモアあるメンバー達の一面が知れるアカウントです。ぜひチェックしてみてください。

PIECES note 更新しています！

PIECESでは昨年からメディアプラットフォーム「note」で様々な発信を行っています。コアメンバーの発信・プロボノメンバーのマガジンリレーなど多様なコンテンツを発信しています。



研修提供

スタディクーポン・ イニシアティブ

お金がなくて塾に通えない低所得世帯の中学生に、自分が選んだ学習塾などに通うことができるスタディクーポンを届けるプロジェクト。中学生の進路相談などのサポートするボランティア（ブラザー・シスター）向けに研修を行いました。

研修プログラム 提供

PIECESが展開する育成プログラムは、児童精神科医や社会福祉士、ワークショップ開発に専門性を有するメンバーにより独自に開発しています。その研修コンテンツやワークショップをベースに、子どもの支援等を行う団体や組織に対して、オーダーメイドの研修プログラムを提供しています。

Project 03

多様な関わりから 市民性を育む

公開講座から、研修プログラムなど多彩なイベントをご紹介します！

PIECESの活動は半年間かけて行う市民育成ではありません。

誰でもご参加いただける公開講座、また他団体などに提供している研修プログラム、多彩なゲストを招いて行うイベントなど、市民育成のエッセンスを感じていただける一般公開イベントも多数行っています。

研修を受け付けています

企業様・団体様での研修をご希望の方は下記メールアドレスまでご連絡ください。

✉ info@piece.tokyo

SNS・公式サイトをチェック！

イベントや公開講座の開始日が決まり次第、主にSNSアカウントにて告知いたします。参加を希望の方はぜひPIECESの公式SNSをチェックしてください。



Twitter
twitter.com/PIECES_Tokyo



facebook
facebook.com/pieces.tokyo



公式サイト
pieces.tokyo

April 23th 2019

コラボイベント

誰も知らない家族の話

～自分の「家族」について、誰かの「家族」について一緒に考えてみませんか？～

様々な家族のかたちに触れてきた産婦人科医でNPO法人親子の未来を支える会代表の林先生と、多様な家族のあり方について考えました。

コラボイベント

社会の誰一人取り残さない ゲームで体験するSDGs

イマココラボさんとコラボイベントを開催！「2030SDGsカードゲーム」を通じて、持続可能な社会について考えました。

November 16th 2018



April 17th 2019



トークイベント

「未来をつくる」お金の使い方

～寄付の仕組みをつくる人・寄付を活かす人・寄付をする人、3つの立場から考えるお金の話～

コモンズ投信株式会社取締役会長の洪澤 健氏、不動産鑑定士で仕事の傍ら子どものサポートや国際協力分野など8つのNPOに継続寄付、自らのブログでも発信をしている下山 俊一氏をお招きしました。「ひとりひとりのお金の使い方」から「社会の未来を変える大きな可能性」をテーマに、PIECES代表の小澤を交え、語っていただきました。

March 11th 2019

PIECES × JAR 難民支援協会

あなたの隣の見えない孤立

Japan Association for Refugees -
JAR 難民支援協会さんとのコラボで開催！

February 29th 2019

PIECES × soar

合同活動説明会

人の可能性が広がる瞬間を届けるメディア、
soar さんとの初のコラボイベント！

イベント

他団体さんとのコラボレーションによるイベントも多数開催。

お互いの活動の重なりから見えた「社会の在り方」を探る、示唆に富んだイベントが目白押しでした。

公開講座

市民育成の期間中、いくつかの講座を一般公開で行っています。

開催エリアは限られますが、事前申し込みをいただいた方なら誰でもご参加いただくことができます。

December 16th 2018

公開講座

子ども支援の原点を問い直す

～子どもの声を大切にする実践とは？～

一人ひとりの子どもたちに文字通り丁寧に伴走を続ける「NPO法人ビーンズふくしま」の山下仁子さん。子どもの願いや本来持っている力を大切にしたい関わりについて語っていただきました。

November 18th 2018

公開講座

子ども期の“生きづらさ”に心を 寄せる

複雑な家庭環境に育ち、様々な感情や葛藤と共に子ども時代を生き抜いてきた菊川恵さん。ご自身の生活史を振り返っていただきながら、その体験をどう捉えているのかお話しいただきました。

あたたかい応援のメッセージを頂いています

親にも子にも選択肢を

子供が犠牲になる事件にひどく心が傷ついて、でも何もできずにいる人が私の周りにも多くいますし、私自身もその一人です。でも「関わる人」を育てようとする活動があることを PICESEの活動を通して知りました。

どこにでもきつという「誰にも相談できないこども」のそばに、話せる相手の選択肢を増やす活動が、これからもっと必要になってくると思うのです。それは、余裕があったらもっと色々してあげられるんだけど……と袋小路にはまっていく親にとっても希望になり得ると思います。「関わる人」を増やすことが大事なのです。すぐに追い詰められてしまう親に、子に、「誰に話したらわかってもらえるだろう」と苦しみながら思った時に、一つでも多くの選択肢をあげたい。そんな思いで私はこの PIECESの活動を応援しています。



漫画家
末次 由紀さん

書割の世界からの脱出

核家族化が進み、地縁が減退する現代において、子ども一人ひとりを取り巻く関係性は縮小の一途を辿っています。そしてその狭間で生まれてゆく子どもの孤立というのは、問題そのものの特性上、わたしたちがなかなか目にすることはできません。

でもよく考えてみると、そんな事態こそが既に一つの異常です。社会の一部が見えないならば、わたしたちはそこに自ら意識を向け、都合のいい情報ばかりが流れ込んでくる書割の世界から脱出してゆかねばなりません。そんな糸口の一つがこうした寄付からはじまる関係性なのでしょう。

すべての子どもたちが安心して信頼できる大人とつながれる未来を願って、わたしは PIECESを応援します。



株式会社リブセンス共同創業者
桂 大介さん

関係性はゆるくて多い方がいい

PIECES代表の小澤いぶきさんの言葉にとっても共感し、私もこのプロジェクトの応援者になりました。

PIECESの取り組む「子どもの孤立」という課題は、ととても見えなくて、一度そのループに入ってしまうと、そこから抜け出すのはとても難しい厄介なものです。そして、「貧困、虐待、いじめ」といった様々な表面化した課題の背景に、常に潜んでいる深刻なものだと思います。

信頼できる大人と出会う機会を一人でも多くの子どもたちに届けるために。PIECESが行う「子どもと寄り添う優しい大人」を育成する活動は、この孤立によって生まれた様々な課題をすぐに解決するものではないですが、こういった活動を一歩ずつ着実に進めていくことが、きっと「孤立を生まない強い地域」を育てていくことでしょう。



認定特定非営利活動法人 ACE 理事
営業コンサルタント
ファンドレイジングアドバイザー
宮本 聡さん

名もなきケア

PIECESの取組がなぜ社会に必要かというと、子育てに欠かさないこの「名もなきケア」を、困難を抱えた親たちと一緒にあって担ってくれるからです。実は私自身も、PIECESの活動を通してこの「名もなきケア」の重要性を認識し、そしていかにこのサポートが得られにくいかに気付かされました。

一見豊かに見えるこの日本で、ひとり親家庭における子どもの貧困率は約 50%ともいわれ、苦しい環境に置かれている子どもは、決して少なくないのです。だからこそ、今よりもっと子育ての協力が得やすい社会になるといいと思います。そしてそのためにも、PIECESの取り組みがより多くの人に知られ、広まっていくことを、強く願っています。



エッセイスト
紫原 明子さん

I 経常収益

科目	金額(円)	合計額(円)
1. 受取寄附金		
受取寄附金	8,335,910	8,335,910
2. 受取助成金等		
受取民間助成金	3,200,000	3,200,000
3. 事業収益		
人的ネットワーク醸成収益	28,584	
研修収益	1,261,880	
啓発・普及収益	617,328	1,907,792
4. その他収益		
受取利息	65	65
経常収益計		13,443,767

- A マンスリーサポーター増加もあり前期比1,597,851 円の増収となりました。
- B 今期受け入れのあった大和証券グループ本社様からの助成分です。
- C 研修機会が増加し、前期比912,855 円の増収となりました。
- D 前期比では8,121,522 円の減収となっています。今期は持続的な収益基盤となる寄付収益の強化に努め、継続助成を除く新規の助成を受け入れなかったことによるものです。

III 経常外費用

科目	金額(円)	合計額(円)
雑損失	750,000	K
過年度損益修正損	743,000	L
経常外費用計	1,493,000	
当期正味財産増減額		△ 7,785,993
前期繰越正味財産額		10,266,329
次期繰越正味財産額		2,480,336

- K 4月に独立したNPO 法人サンカクシャへの事業譲渡に伴う支出です。
- L 前期受け入れ、全額収益計上した助成金に関して未使用分を当期において返還したことによるものです。

助成実績

公益推進財団 JM 基金	子供の未来応援基金 第2 回未来応援ネットワーク事業	Water Dragon 財団
大和証券グループ本社 大和証券グループ 輝く未来へこども応援基金	中央ろうきん社会貢献基金 中央ろうきん若者応援ファンド 2018	NPO 法人 ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京

寄付いただいた企業のみなさま
※五十音順敬称略で掲載しております

Asian Beauty Project / 合同会社プリシア / 株式会社ソナーレ / 株式会社テル・コーポレーション
株式会社LIFULL / コモンズ投信株式会社 / RITA GROUP /

II 経常費用

科目	金額(円)	合計額(円)
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬	10,449,940	E
給料手当	0	F
人件費計	10,449,940	
(2) その他経費		
業務委託費	1,821,025	G
謝金	105,922	
旅費交通費	1,035,505	H
消耗品費	750,283	
地代家賃	826,200	
雑費他	308,941	
その他経費計	4,847,876	
事業費計		15,297,816
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	200,000	
法定福利費	673,462	
人件費計	873,462	
(2) その他経費		
業務委託費	1,465,020	I
印刷製本費	93,818	
会議費	749,800	
地代家賃	714,800	
雑費他	542,044	
その他経費計	3,565,482	
管理費計		4,438,944
経常費用計		19,736,760
当期経常増減額		△ 6,292,993

- E 日常の事業運営に携わる理事メンバーへの報酬額です。前期比2,769,940 円の増額ですが、その分より多くの時間をPIECESの事業運営にコミットできるようになりました。
- F 理事以外のメンバーは業務委託での勤務のため給料手当は発生していません。
- G 主に今期力を入れた啓発・普及事業に関わる委託費として充当しています。
- H 今期から茨城県水戸地域で育成プログラム開始のため前期より増加しています。
- I 経理やファンドレイズ業務、経営コンサルティングのための委託費などが含まれています。
- J 前期受け入れ、全額収益計上した助成金を今期の活動経費として活用しているため、経常費用としてはマイナスの増減となっています。

PIECES Member



小澤 いぶき
代表理事 / 児童精神科医
Founder

精神科医を経て児童精神科医として複数病院にて勤務。トラウマ臨床、虐待臨床、発達障害臨床を専門とし、多数自治体のアドバイザーを務める。さいたま市の子育てインクルーシブモデル立ち上げ・プログラム開発に参画。2017年3月には子どもウェルビーイングに向けたザルツブルグステイトメント作成に参画。想像力により一人一人の尊厳が尊重される寛容な世界を目指し、PIECESを運営している。



斎 典道
理事 / 社会福祉士

大学より国内外の社会的養護、子育て支援のフィールドワークを実施。2012年にはデンマークに1年間滞在し文化としてのウェルビーイングに深い感銘を受ける。日本福祉大学大学院在学中に小澤と出会い設立に参画。子ども・子育て家庭の教育福祉問題に対してシステミックな変革を追求する、独立型ソーシャルワーカーの道を切り拓くべく猛進中。



青木 翔子
理事

自身がシングルマザー家庭に育ったことから教育格差を肌身で感じ格差問題に関心を持ち、どんな子も尊重される社会を目指して研究・実践を続けている。学習環境のエスノグラフィ、インタビューをはじめとする質的調査の方法を専門とする。リサーチとワークショップを組み合わせた人材育成プロジェクトを担当している。



藤田 奈津子
PR / コミュニケーター

オフィス家具メーカーに勤務しながら、出産と東日本大震災を機に、さまざまなボランティア活動・社外コミュニティに参加しはじめる。子どもも大人も平等なコミュニティづくりを展開するasobi 基地で小澤と出会い、PIECES 創業前からのイベントサポートなどを経て、2019 年から、PR/ コミュニケーターとして参画。



長谷川 真澄
デザイナー

障害を持つ家族がいる環境で育ち、美術大学へ進学、そこで様々な違和感を感じたことから社会の構造に興味を持つ。PIECESへはプロボノとして1年半ほど活動したのち参画。グラフィックなど表面のデザインだけでなく「社会の仕組み・構造から新しく、ユーモアをもって伝えるデザイン」を目指し活動している。



若林 碧子
ファンドレイズインターン
CYW4 期生

現在早稲田大学文学部にて教育学を専修しながら、学童でのボランティアなど実践を通じて教育福祉を学ぶ。コミュニティユースワーカー4期生として活動し、プログラム修了後はインターンとしてPIECESに参画。大学初年次からNPO やソーシャルベンチャー企業でのバックオフィスに関わり、PIECES では広報ファンドレイジングを担当。

広報ファンドレイズ / 事務局
インターン募集中！

現在、学生・社会人の方を対象としたインターンを募集しています。
PIECES の活動に興味がある、自分に出来ることを探したい……という方はぜひ右QRコードまたは下記URL から詳細を確認、応募フォームからご連絡ください。
<https://www.pieces.tokyo/news/2019/7/29/intern>



副代表の荒井が独立 新団体「サンカクシャ」を発足

PIECESの副代表を務めていた荒井佑介が2019年4月に独立、新団体「サンカクシャ」を発足いたしました。

両団体とも、誰もが尊厳をもって生きられる社会、そして子どもが孤立しない社会を願い活動を進めてまいりますが、サンカクシャは豊島区の子ども支援事業を引き継ぎ、豊島区及び文京区における地域の支援モデルづくりに注力して取り組んでいきます。今後とも両団体の事業活動への応援・ご協力をよろしくお願いいたします！



サンカクシャ
Facebookページ
facebook.com/npo.sankakusha/

PIECE for PEACE

PIECESの活動はメンバーだけでなく、様々なプロボノ・インターンメンバー（通称：まきば）によって支えられています。
まきばメンバーのこの先の活躍にも、ぜひご注目ください。



来年度の取り組みと目標

地域を越えた 学びと繋がりを生む 「市民ネットワーク」の 創出へ！

来年度、PIECES は新しいチャレンジを考えています。
そのチャレンジとは、東京・水戸を皮切りに各地で活動する市民や支援者が、地域を越えて共に学び続けることのできる『ラーニングコミュニティ』をつくるという取組み。
育成プログラムを各地に広げながら、それらを点から面に繋いでいく。各地の市民や支援者が、実践する中で得た経験や学びを共有し、相談し、エンパワメントし合っていけるようになって初めて、子どもたちの周りの優しいつながりが、有機的・発展的に生まれ続けていくと考えています。



継続寄付のお願い

人と人とのより良い関係性のあり方を問い続け、そしてデザインし続けていくこと。それが全ての子どもや大人、そして多様な人々が尊厳を持って生きていける社会につながっていく。私たちはそう考え来年度も引き続き活動とチャレンジを続けていきます。
来年度もお力をいただいている皆様へ良い報告ができるよう、進んでゆきたいと思います。今後とも PIECESをどうぞよろしくお願いいたします。

“ 1 万円 / 月の寄付で、3-5 人の子どもに
「優しいつながり」を届けることができます ”

1,000 円

3,000 円

5,000 円

10,000 円

＼ 寄付金控除を受けることができます ／

PIECESは、東京都から認可をうけた「認定 NPO 法人」です。
これにより PIECESに寄付をされた方は、確定申告によって寄付金控除を受けることができます。
詳細は右 QRコードの Webページよりご確認ください。



＼ Tポイント寄付も可能！ ／

yahoo!ネット基金募集中

マンスリーでの寄付だけでなく、yahoo! ネット基金を通じた少額からの寄付も受け付けています。
Tポイントを使った1ポイントからの寄付も可能です。

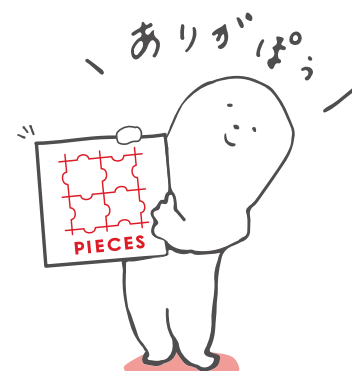
現在の寄付人数 979人

うち継続寄付人数 4人

※ 2020年1月14日 12:00時点



<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5219001/>



© きこぼろ

きこぼろ式PIECESマガジン

<https://note.com/yukiehosono/m/mb41ec5b69149>



団体名	認定NPO法人PIECES
住所	〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-10三翔ビル本郷4F 小野田高砂法律事務所内 social hive HONGO
Email	info@pieces.tokyo
設立日	2016年6月22日
Webサイト	https://www.pieces.tokyo/